

2022年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース											
ベーシックレッスン1											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	平山雅月、小澤悠生			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
発声などのヴォーカルトレーニングとコーラスなどを学びながら、現代のJ-POP・Rockのルーツをさかのぼって学習していきます。ボーカリストに必要な呼吸法、音程コントロール、体の使い方などで基礎ができる。基礎作りにより自分の声の特性を理解した上であらゆるジャンルと現場に適用できる実践力となるボーカリストを育成する。また現代のボーカリストはライブのみならず様々な発表の環境と録音環境に対応できる必要があるので、心構えを習得する。初見で正確に楽譜を読み、歌えるよう学習していきます。DAWを使い、ボーカリストとして自分の歌をレコーディングできるようになる。											
到達目標											
ピアノ伴奏をベースに合奏、独唱歌唱、ボイストレーニングを実施する。「抑揚」「リズム感」「表現」を育てることを目標とする。自立して一人で活動していくことのプロセスを学び、テクノロジーを活用したサウンドロゴと、その制作法も体得する。各々が持つ声のポテンシャルを引き出し、魅力的な声を発声できる基礎を作る。どんなジャンルでも歌いこなせるような音程のコントロール、ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどの基礎的なテクニックの習得する。本番環境でも安定した歌を歌えるようなメンタルを養う。与えられた楽譜をすぐに読み、それを正確に歌えることができることを目標とします。自立して一人で活動していくことのプロセスを学び、テクノロジーを活用した制作法を体得する。											
授業方法											
歌唱法、演奏法、各ツールの操作法や、サウンドの加工やエフェクトの使用法を解説します。実際にクライアントに求められるような内容に沿ったサウンド作品を制作します。各自の練習/創作法に対して個別最適化した対応を行いなが、各々の内容に沿ったアドバイスをを行います。”自分の声と体に向き合い、歌に必要な体力や声帯のコントロールを身に着けるトレーニングをする。自分の声を客観的に分析できるように練習を録音する。人前でも自分の声を魅力を最大限に出せるように、グループでの発声練習と個人での発声練習を並行して行っていく。音符の読み方、リズムのとり方、調号を学び、簡単なフレーズを初見で歌えるよう進めて行きます。録音機材を使用法を学習します。譜面に書いたメロディーやコードををMIDIで打ち込みしたり歌として録音し、また、メロディーに対するハモリの録音を行います。											
成績評価方法											
試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
適時、講師より教材を配布する。適時、講師より教材を配布する。適時、講師より教材を配布する。適時、講師より教材を配布する。											
回数		授業計画									
第1回		選曲と楽譜作成の説明。/サウンドロゴやBGM、効果音についての解説、導入歌うために必要な声帯の説明ト音記号、へ音記号、音符の読み方録音機材の使い方を学ぶ									
第2回		楽譜を講師の演奏で確認。/ループ素材を使用したBGM作成 1 歌うために必要な呼吸の説明楽譜を講師の演奏で確認。/ループ素材を使用したBGM作成 1 録音機材の使い方を学ぶ									
第3回		楽曲に対する考察。/ループ素材を使用したBGM作成 2 作品提出「腹式呼吸」練習方法指導スケールを学ぶ。自分の声を録音してみる									

2022年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース	
ベーシックレッスン 1	
第4回	BPMを決める。/リズムの打ち込み、基本的なリズムパターンのBGM作成 1 声帯の扱い方、腹式呼吸を連動した発声を身につけるスコアの書き方/楽曲のセクションを学ぶ。インスト音源を使用し歌を録音する。
第5回	イメージを基に歌う。/リズムの打ち込み、基本的なリズムパターンのBGM作成 2 作品提出自分の音域を確認し音域を広げるトレーニングト音記号Cスケール 1 小節の初見/ヘ音記号Cスケール 1 小節の初見4小節のコードトラックを作り歌を録音する
第6回	改めて楽曲に対する考察とディスカッションと細かな指導。/リズムと音階楽器を使用したサウンドロゴ制作 1 ロングトーンを安定させるトレーニングト音記号Cスケール 2 小節の初見/ヘ音記号Cスケール 2 小節の初見4小節のコードトラックを作り歌を録音する
第7回	間奏の考察。/リズムと音階楽器を使用したサウンドロゴ制作 2 作品提出チェストボイス、ミドルボイス、ヘッドボイスについて学ぶト音記号Cスケール 4 小節の初見/ヘ音記号Cスケール 4 小節の初見4小節のコードトラックを作り歌を録音する
第8回	終わり方の考察。/マイクを使用した音声収録、素材の準備副鼻腔共鳴の作り方練習ト音記号Cスケールの 8 分音符交えた 1 小節の初見/ヘ音記号Cスケールの 8 分音符交えた 1 小節の初見4小節のコードトラックを作り歌を録音する
第9回	最終的な楽譜、構成の確認。/音声を加えたサウンドロゴ制作 1 ビブラートのトレーニングト音記号Cスケールの 8 分音符タイ交えた（シンコペーション） 2 小節の初見/ヘ音記号Cスケールの 8 分音符タイ交えた（シンコペーション） 2 小節の初見4小節のコードトラックを作り歌を録音する
第10回	メトロノームを使った練習。/音声を加えたサウンドロゴ制作 2 作品提出自分の声を知るト音記号Cスケールの 8 分音符タイ交えた（シンコペーション） 2 小節の初見/ヘ音記号Cスケールの 8 分音符タイ交えた（シンコペーション） 4 小節の初見譜面を見ながら4小節のメロディーを打ち込む
第11回	伴奏とのすり合わせ。（抑揚、強弱など）/Adobe Photoshopを使った制作裏声を出す（ファルセットとミックスボイスの違いなど）ト音記号Cスケールの 1 6 分音符交えた 1 小節の初見/ヘ音記号Cスケールの 1 6 分音符交えた 1 小節の初見譜面を見ながら4小節のメロディーを打ち込む
第12回	全体的な流れの確認、修正。/Adobe Illustratorを使った制作音の移動のさせかた（近い距離、遠い距離など）ト音記号Cスケールの 1 6 分音符タイ交えた（シンコペーション） 2 小節の初見/ヘ音記号Cスケールの 1 6 分音符タイ交えた（シンコペーション） 2 小節の初見譜面を見ながら4小節のハモリを打ち込む
第13回	1 曲としての演奏と最終確認。/Adobe Premiere Proを使った制作声量コントロールト音記号Cスケール、8 分音符と 1 6 分音符を交えた 4 小節の初見譜面を見ながら4小節のハモリを打ち込む
第14回	中間発表会。授業内発表テストインスト音源を使用し歌を録音する。
第15回	前期のまとめ前期のまとめ前期のまとめ前期のまとめ